

バリアフリー

第9講

目次

1. バリアフリーについて
2. 高齢者や障がい者について
3. 問題点
4. 対策
5. まとめ

バリアフリーとは？

高齢者や身体障がい者が社会に参加し日常生活をおくるには、多くの障壁（バリア）がある。

その障壁を取り除くことを**バリアフリー**という。

バリアフリーに関連

アクセシビリティ

高齢者や身体障がい者も含むすべての人が様々な情報にアクセスできる

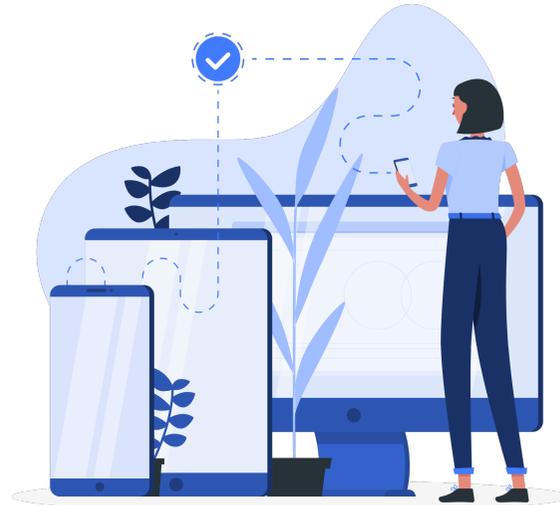
Webアクセシビリティ

ユニバーサルデザイン

すべての人に平等にアクセシビリティを保証するために、使いやすいサービスを設計する

情報化社会

情報化社会はマルチメディアの活用のために情報機器の利用が基礎となる



[Technology](https://storyset.com/technology)
illustrations by Storyset

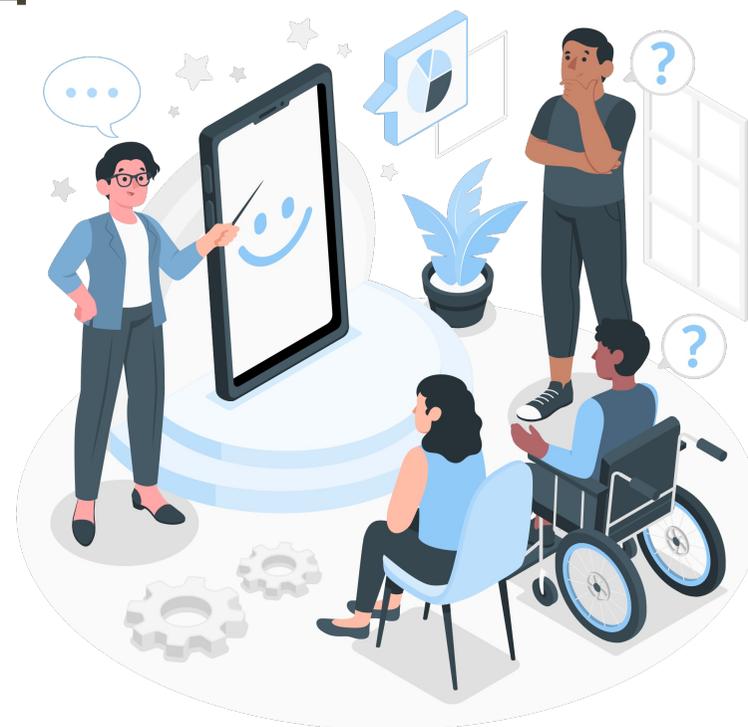
高齢者や障がい者

視覚障害

聴覚障害

音声言語障害

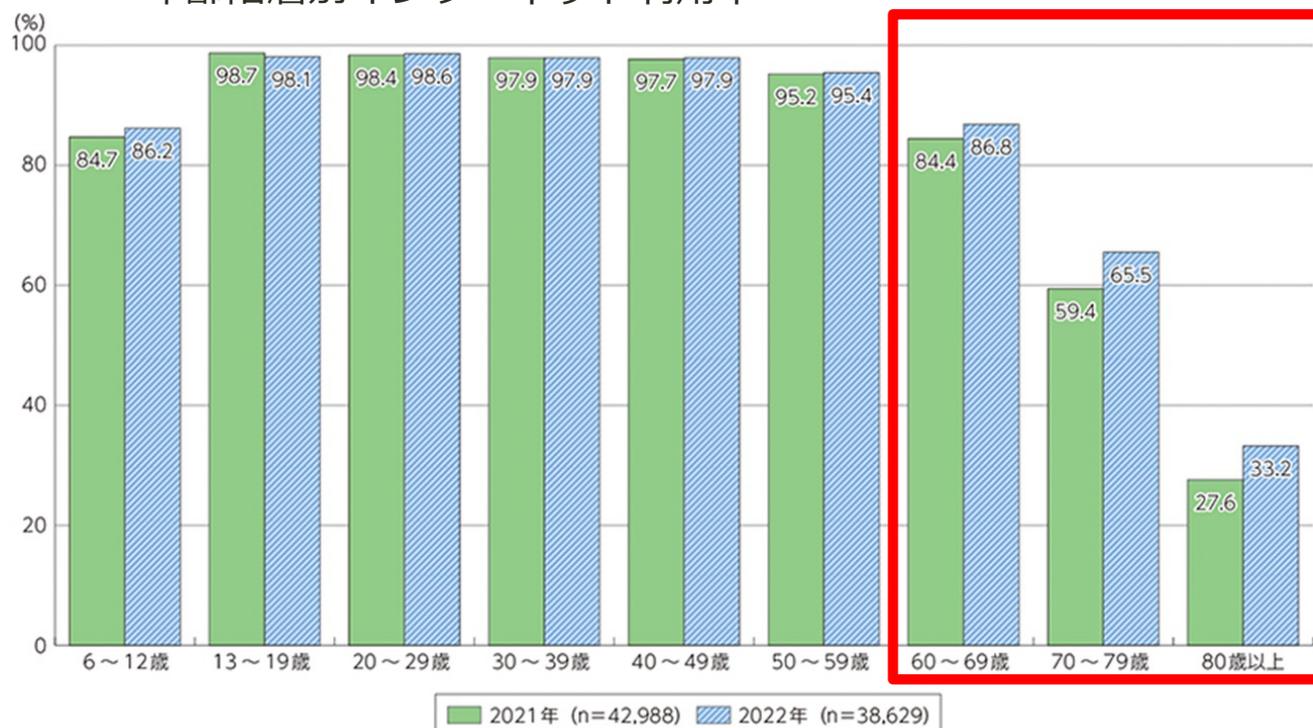
肢体不自由



[Worker illustrations by Storyset](https://storyset.com/worker)

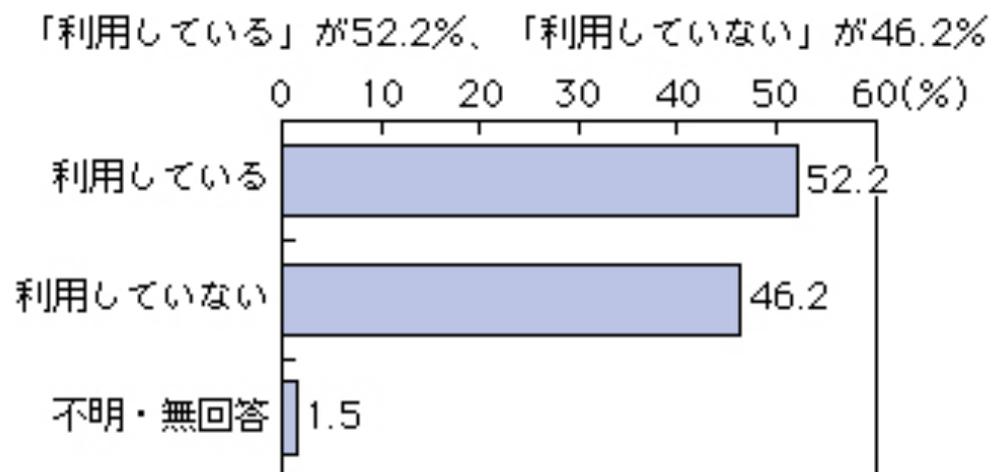
高齢者

年齢階層別インターネット利用率



60歳以降年齢階層が上がるにつれて利用率が低下する傾向がある。

障がい者



内閣府「平成21年度 障害者施策総合調査」により作成
障がい者のインターネット利用は、低い水準にとどまっている

問題点

ウェブページがわかりづらい、見づらい
機器の操作がしづらい



[People illustrations by Storyset](https://storyset.com/people)

対策

文字に色をつけるとき、文字の背景色とのコントラスト比を高くする

- 文字 文字

単語の間にも時間にスペースやタブを用いない。

- 文 字[ぶんじ]、文字[もじ]

キーボードだけで操作できるようにする。

対策

視覚障がい者：読み上げ機能、音声入力機能、点字機能

聴覚障がい者：生活環境音や笑い視化できるアプリ

肢体不自由者：入力支援機器



アシスティブ・テクノロジー

障害による物理的な操作上の困難や障壁（バリア）を、機器を工夫することによって支援しようという考え方がアクセシビリティであり、それを可能とするのがアシスティブ・テクノロジーである。

「教育の情報化の手引き-追補版-(令和2年6月)第1章」文部科学省

入力支援機器

ジョーズ+(プラス)



Zono



まとめ

- すべての人に平等にアクセシビリティを保証
- そのために、ユニバーサルデザインにすることが重要
- ウェブページを作るときに、高齢者や障がい者を考慮した工夫をすることが重要

参考文献

政府広報オンライン

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202310/2.html>

総務省「通信利用動向調査」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r05/html/datashu.html#f00284>

文部科学省 教育の情報化に関する手引き

https://www.mext.go.jp/content/20200609-mxt_jogai01-000003284_002.pdf

テクノツール

<https://ttools.co.jp/>

参考文献

総務省 平成23年度版 情報通信白書

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h23/html/nc222250.html#:~:text=%E5%86%85%E9%96%A3%E5%BA%9C%E3%81%8C%E5%B9%B3%E6%88%9021,2%2D2%2D21%EF%BC%89%E3%80%82>

総務省 「情報アクセシビリティ好事例2023」

https://www.soumu.go.jp/main_content/000942440.pdf